

学 位 論 文 要 旨

氏 名 滝澤 毅矢



論 文 題 目

「介護職員に対する実践者研修の役割
-研修前後の職業ストレスとコーピングスキルの変化-」

指 導 教 授 承 認 印

長 岡 孝



介護職員に対する実践者研修の役割

-研修前後の職業ストレスとコーピングスキルの変化-

氏名 滝澤 毅矢

(以下要旨本文)

【序論】

高齢化社会が進展する中で介護施設というハード面の充実とともに介護職員の質的向上, すなわちこれらの施設で働く介護職員の充実も重要といえる。

認知症介護職員に対する能力向上を目的とした教育の一つとして認知症介護実践者研修 (以下, 研修) がある。一方, 諸井(1999)は特別養護老人ホームで働く職員のバーンアウトの様態について報告し, Gastle and Engberg (2006) は, 入職約 1 年で 56.4%の介護職員が離職することを示し, 高齢化社会における介護職員のストレスの強さや離職率の高さが問題視されている。

これらのことから, 研修による介護力向上を目的とした教育の整備は行われてきているが, 介護職員のストレス軽減に対する取り組みには課題が残る状態が続いている。ことさら, 研修における介護職員のストレス軽減効果に着目した明確な取り組みはなされていないといえる。そこで, 本研究では, 研修を受講した介護職員に対して研修前後での職場ストレス並びにコーピングスキルの変化について比較検討し, ストレスマネジメントとしての研修の意義を調査した。

【方法】

《対象者》

2008 年 8 月から 2010 年 3 月までの研修に参加した介護職員のうち, 研究参加に同意を得られた 134 名(男性 41 名, 女性 93 名)を対象とした。

《手続き》

本調査では研修参加者に対し, 講習初日に 1 回目の質問紙を, 講習終了日に 2 回目の質問紙を施行した。両施行で使用する質問紙にはそれぞれ番号をふり, 参加者には同一番号を記した二組の質問紙を講習初日において無作為に配布し, 個人を特定できないようにした。

《統計分析》

研修前後の各尺度の合計点及び下位尺度の得点を対応のある t 検定により検討した。また, Type I error を考慮し, 有意差がみられた尺度のうち効果量が 0.20 以上に該当する尺度のみ有為差及び有効性があるとした。次に, t 検定より得られた結果から, ストレス軽減に影響を与えている変数を一般化推定方程式により検討した。

【結果】

《参加者全体の変化》

参加者全体における研修前後の比較では、コーピングスキル尺度と修飾要因尺度の点数が上昇し、ストレス反応尺度の点数は低下し、いずれの尺度においても有効性が認められた。さらに、内部因子では修飾要因尺度の上司からのサポートと同僚からのサポート、ストレス反応尺度のイライラ感と疲労感、コーピングスキル尺度の問題解決と相談に有意差と有効性が認められた。

《男女ごとの変化》

男性参加者における研修前後の比較では、コーピングスキル尺度の点数が上昇し、ストレス反応尺度の点数は低下し、いずれの尺度においても有効性が認められた。さらに、内部因子では、ストレス反応尺度のイライラ感とコーピングスキル尺度の問題解決と相談に有意差と有効性が認められた。

女性参加者における研修前後の比較では、コーピングスキル尺度と修飾要因尺度の点数が上昇し、ストレス反応尺度の点数は低下し、いずれの尺度においても有効性が認められた。さらに、内部因子では、修飾要因尺度の上司からのサポートと同僚からのサポート、ストレス反応尺度の活気とイライラ感と疲労感、コーピングスキル尺度の問題解決と相談に有意差と有効性が認められた。

《ストレス反応の変化量に対する影響》

参加者全体では△相談において△ストレス反応に対する主効果が認められた。男性参加者では△上司からのサポート、△問題解決と△相談において△ストレス反応への主効果が認められた。女性参加者では△同僚からのサポートにおいて△ストレス反応への主効果が認められた。

【考察】

参加者全体における研修前後の変化をみると、コーピングスキルの点数が向上し、介護による負担感を表すストレス反応尺度の点数も軽減したことが示唆され、△相談に△ストレス反応への主効果が認められた。このことから、研修によるストレス軽減の効果が確認されたとともに、ストレス軽減にはコーピングスキルの向上が関与していると推察された。

男性参加者における研修前後の変化をみると、問題解決と相談の点数が向上し、ストレス反応尺度の点数は軽減していた。一方、女性参加者における研修前後の変化をみると、上司からのサポートと同僚からのサポート、問題解決と相談の点数が向上し、ストレス反応尺度の点数は軽減していた。また、△ストレス反応への主効果に男性参加者と女性参加者で異なった結果が認められ、男性参加者のストレス軽減には個人のコーピングスキルを向上させることが効果的であり、女性参加者には同僚との協力体制の確立などといった円滑な職場の対人関係の構築が効果的であることが推察された。